

## ◇慢性閉塞性肺疾患(COPD)

慢性閉塞性肺疾患(COPD)は長い喫煙生活が原因となる病気です。肺はスポンジのように空気が入っている小さな袋、すなわち肺胞がつまっている臓器ですが、喫煙によって肺胞の壁が壊れて大きな袋(気腫化)を形成するようになると酸素のやり取りが不十分になります。また気道にそった肺胞の壁は縮もうとする気道を引っ張る糸のようなもので、肺胞が壊れることで糸がちぎれて気道が狭くなってしまいます。喘息と違って、COPDの気道狭窄は時間による変化がないのが特徴で、喫煙歴があって階段や坂道などを登るときに息切れを感じる方は、COPDが隠れていることがありますので医療機関でご相談下さい。